

CAGLIERO 11

カ リ エ ロ

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

私たちは洗礼によって、この世で、 それぞれが生活する条件の中で、キリストを宣べ伝える宣教する弟子となるよう呼ばれています。この世が、復活された方の現存を見いだすために。キリストは愛のメッセージを私たちにゆだねられます。日々の生活の中で主が私たちに出会わせてくださる人々に、それを運び、告げ、分かち合うためです。

キリストは人々にもたらすため、私たちにメッセージをゆだねられます。私たちは、宛先に手紙を届ける郵便配達員のように内容を知らずに運ぶのではなく、むしろ、香水の販売員のようであるべきです。さまざまな香りを提供するにとどまらず、香水を差し出しながら、販売員自身、その香りに関与するのです。主が私たちにゆだねる愛のメッセージに、私たちは関与しなければなりません。私たちの生き方がそのメッセージに酔いしれ、そのメッセージを人々と分かち合えるようにならなければなりません。

私たち皆がキリストの愛の香りに 酔いますように。その愛によって、私 たちの出会う人々の人生・生活に、素 敵な香りがもたらされるように。

■サレジアニ・コオペラトーリ

サレジアニ・コオペラトーリ 世界コーディネーター アントニオ・ボッチャ

最初のサレジオ宣教事務局、 75周年を祝う

も貧しく助けを必要とする子ども、家庭の生活の向上のために献身しています。

サレジオ宣教事務局 (SMO-USA) はジェームズ・オローグレン神父によって 1947年に創設されました。その目的は、若者にさまざまな職業教育を行い、まっとうな仕事に就き、自立した積極的な社会の一員、良いキリスト者となるよう若者を助けるサレジオの活動を支援することでした。SMO-USAはこの75年間、若者とサレジオ・ミッションを助けるため、たゆみなく献身してきました。このミッションの結果、私たちは今、心ある人々が集まる世界的な集団になり、世界の最

SMO-USAの75周年の祝いが今年**11月22日、ニューヨークで、総長を迎え**開催されることを皆さんにお知らせできることをうれしく思います。この心躍るような節目は、2年半に及ぶパンデミックを経て、再び顔と顔を合わせて集う機会に恵まれ、私たちサレジオのアイデンティティーを再び活気づけるものとなるでしょう。私たちは世界各地の貧しく恵まれない状況に置かれた共同体の人々を支援するプログラムによって、いのちを救うため、資金集めを続けてきました。若者たちを支え、助けを必要とする家庭の道を照らすため、数多くの海外ミッション・プロジェクトを実施してきました。しかし、世界のために大きな事業を行うことと、まことのサレジオのアイデンティティーを保ち、私たちの精神を祝うこととの**注意深いバランス**を維持するよう、私たちは努めています。

来たる11月は、共感と惜しみない気持ちにあふれ、変わることなく共に歩んでくださる支援者の皆さんとのパートナーシップを新たにしながら、喜びのうちに再編成に取り組むすばらしい時となるでしょう。支援者の皆さんがいなければ、私たちの愛徳のミッションは存続できません。皆さんの**愛とやさしさ**のおかげで、私たちは可能な限り、最善の方法で活動でき、またこの協力によって、共に、最も困難な状況にある子ども、家庭を助けることができました。

最後になりますが、この重要な記念の年は、**献身的な仲間たちを思い起こす**時となるでしょう。これまでの長年の間に、奉仕し、人生をささげてきた仲間たちです。これからの75年も、私たちは引き続き共に歩みます、世界の若者、貧しい人々により明るい未来を差し出すため、今日、明日、そしてこれからの歳月も共に。

■ サレジオ宣教事務局-USA事務局長 アガスティン・ベク神父、SDB



主なサレジオ宣教事務局:

- サレジオ宣教事務局米国、ニューロシェル-1947年
- ドン・ボスコ・ミッション ドイツ、ボン - 1970年
- ミシオネス・サレジアナス スペイン、マドリード - 1970年
- ミッシオーニ・ドン・ボスコイタリア、トリノ・1991年



Cagliero 11 (カリエロ11) の全バックナンバー: http://salesians.jp/library/cariero

日本:ある高齢の宣教師の経験



ウンベ神父様、年を取っていくのは自然なことです。そのことは日本のサレジオ家族の存在と働きに、どのように影響を与えていると思いますか?

日本での宣教活動から引き上げた修道会もあります。私たちサレジオ会は80名ほどの会員がいますが、そのうち十数名が高齢者、あるいは病気をかかえています。日本の出生率は5.1から1.3に落ち込み、その下降傾向は止まりません。家族のただ一人の子どもが家を出ることは難しく、日本人サレジオ会員の召命は少なくなっています。5つの学校と2つの児童養護施設にはそれぞれ2、3人のサレジオ会員がいて、ほかのスタッフは皆、一般の人です。若い日本人は仕事を優先することを強いられるので、本当のサレジオ会らしい活動を行うのが容易ではありません。若者の姿を見かけない教会も多く、ミッションは大人に限定されてしまいがちです。

アルゼンチン出身の宣教師の大先輩として、神父様にとって今日の宣教師とは、どのような人ですか?

経済的に豊かな国は宣教師にとって多くの難しさがあると思います。宣教師は、政府の力が足りず手が回らないところへ行って、若者と共に働くべきです。ドン・ボスコがしたように、貧しい人々を教育し、仕事に就けるように助け、自分の手で働けるように職業を教えるのです。今日の宣教師とはどのような人でしょうか? 中世のころ、宣教師は修道会の偉大な創立者などでした。聖ドミニコ、アシジの聖フランシスコ、聖フランシスコ・ザビエル、パドアの聖アントニオ……彼らはヨーロッパを福音化しました。今日、宣教師は、より発展した国々、あるいは宗教のない国々へ行く人たちです。

日本のサレジオ会の事業でいちばん好きなところは、どんなところですか?

私は第二次大戦の終戦後、日本に来ました。大変な時代でした。日本はまだ混乱していて、多くの問題がありました。本当のことを言えば、 戦前、戦後のサレジオ会の活動はすばらしかった。モンシニョール・チマッティは、事業を支え、最初のサレジオ会員たちに食べさせるため、 日本全国、また中国や朝鮮半島で3千回に及ぶピアノコンサートを行いました。宣教師は、ポケットに一銭も持たずに全世界を福音化するために出かけて行く人です。反対に、たくさんのお金を持って出かけていく宣教師は賑やかに音をたてますが、何も収穫できません。今日、私たちは、あまりお金を持たずに、でも神への、キリスト者の扶け聖マリアへのより大きな信頼をもって前進する勇気を持たなければならないと思います。



ウンベルト・カバリエレ神父, SDB

1930年、**アルゼンチン**、ブエノスアイレス生まれ。 1956年から宣教師として**日本**で働く。最初の仕事は、 300名の戦災孤児を世話する大きな養護施設での奉 仕だった。

現在、横浜の共同体の一員。

東チモール初の枢機卿はサレジオ会員

2022年5月29日、教皇フランシスコは、21人を新たに枢機卿職に就けるため8月27日に枢機卿会議を招集。新枢機卿として2人のサレジオ会員が挙げられ、その1人、ゲント(ベルギー)の**ルカ・バンロイ名誉大司教**は任命を辞退した。

ヴィルジリオ・ド・カルモ・ダ・シルヴァ大司教、SDB

- ディリ(東チモール)大司教
- 1967年、東チモール、ヴェニラーレ生まれ。1998年、司祭叙階。
- 修練長を務めた後、東チモール-インドネシア委任地区の長上を務める。
- 2016年、ディリの司教に任命され、2019年、東チモールの初めての大司教となる。
- 人口約130万人、アジアで最も若い東チモールで、最初の枢機卿となる。2022年5月20日、東チモールはインドネシアからの独立20周年を祝った。

7月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

高齢者のために

日本のサレジオ家族の高齢の会員、サレジオの恩人の高齢の方々のために。

アジアのために

高齢者のために祈りましょう。高齢者は、人々のルーツ、記憶を体現しています。 高齢者の経験と知恵に助けられ、若い人々が、希望と責任をもって未来に目を向けますように。 「教皇フランシスコの祈りの意向」